



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月13日

上場会社名 株式会社 加藤製作所
 コード番号 6390 URL <http://www.kato-works.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 公康
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員財務統括部長 (氏名) 小西 二郎
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3458-1130

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	55,464	6.4	260		450		751	
2019年3月期第3四半期	59,263	1.6	2,849	136.8	3,478	129.3	2,208	152.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,583百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 1,555百万円 (22.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	64.13	
2019年3月期第3四半期	188.43	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	125,994	56,113	43.7
2019年3月期	125,557	58,496	45.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 55,115百万円 2019年3月期 57,467百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		47.50		47.50	95.00
2020年3月期		15.00			
2020年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,000	6.3	350	92.2	50	99.0	600		51.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	11,743,587 株	2019年3月期	11,743,587 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	26,022 株	2019年3月期	25,863 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	11,717,651 株	2019年3月期3Q	11,717,858 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用環境の改善が見られるものの、消費税増税や台風被害により景気は減速感が出てきました。米中貿易摩擦により中国経済は減速が続いており、その影響が東南アジアの経済に始り、景気の不透明感が続いております。

このような状況下、当社グループは、横浜工場の生産機能を群馬工場へ移転し、生産体制の再構築を行っております。また、国内各工場の補修部品を新設された坂東工場へ集約し、部品供給体制の効率化を図っております。

なお、非連結子会社であったKATO IMER S.p.A.とKATO EUROPE B.V.は、重要性が増したことにより第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は554億6千4百万円(前年同期比93.6%)となり前年同期を下回りました。損益につきましては、製品ミックスの変化及び生産体制再構築のための工場移転作業の影響並びに工場の改修、増設による減価償却費の増加により原価率が悪化し、営業損失2億6千万円(前年同期は営業利益28億4千9百万円)、経常損失4億5千万円(前年同期は経常利益34億7千8百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は7億5千1百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益22億8百万円)となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

① 日本

国内向けの建設用クレーンは、構造規格変更によるモデルチェンジ前の駆け込み需要の反動減と消費税増税により売上高は減少し、海外向けの建設用クレーンも、中国経済の減速が東南アジア経済にも影響し、インドネシア、マレーシアなどを中心に売上高は大幅に減少しました。国内向けの油圧ショベル等は、第2四半期まではレンタル会社の需要は増加したものの、景気の先行きが不透明なことによる買い控えから、売上高が伸び悩み微減となりました。海外向けの油圧ショベル等は、一部製品の部品納入遅延が続き、生産遅れが発生したことにより、売上高は減少しました。よって、日本の売上高は471億7千7百万円(前年同期比88.9%)となり、セグメント損失は12億8千3百万円(前年同期はセグメント利益12億1千3百万円)となりました。

② 中国

中国の油圧ショベル等は、米中貿易摩擦により中国経済の減速が続き、インフラ投資の停滞が見られ売上高は減少しました。

中国の売上高は79億7千4百万円(前年同期比84.4%)となり、セグメント利益は10億5千2百万円(前年同期比62.9%)となりました。

③ その他

建設用クレーンを製造販売しているKATO WORKS(THAILAND)CO.,LTD.の売上高は増加しました。また、連結子会社としてミニショベル等を製造販売しているKATO IMER S.p.A.及び建設用クレーンや油圧ショベル等を販売するKATO EUROPE B.V.を加えたことにより、その他の売上高は34億3千5百万円(前年同期比554.4%)となり、セグメント損失は4億8千1百万円(前年同期はセグメント損失1億9千2百万円)となりました。

主要品目別売上高の状況は次のとおりであります。

① 建設用クレーン

国内は、オペレータ不足が続き、また、構造規格変更によるモデルチェンジ前の駆け込み需要の反動減と消費税増税により、売上高は減少しました。国内建設用クレーンの売上高は290億2千7百万円(前年同期比97.0%)となりました。海外は、中国経済の減速が東南アジア経済に影響し、インドネシア、マレーシアなど東南アジアを中心に、売上高が大幅に減少しました。海外建設用クレーンの売上高は40億3千3百万円(前年同期比70.0%)となりました。よって、建設用クレーンの売上高は330億6千万円(前年同期比92.7%)となりました。

② 油圧ショベル等

国内は、第2四半期まではレンタル会社の需要が増加したものの、景気の先行きが不透明なことによる買い控えから、売上高は微減となり、国内油圧ショベル等の売上高は89億7千3百万円(前年同期比99.0%)となりました。海外は、米中貿易摩擦の影響により中国経済の減速が続き、インフラ投資の停滞が見られました。また、一部製品の部品納入遅延が続き、生産遅れが発生したことにより、海外油圧ショベル等の売上高は128億1千万円(前年同期比93.3%)となりました。よって、油圧ショベル等の売上高は217億8千3百万円(前年同期比95.6%)となりました。

③ その他

その他の路面清掃車や万能吸引車等の売上高は6億2千万円(前年同期比79.0%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末の1,255億5千7百万円に比べ4億3千7百万円増加し、1,259億9千4百万円となりました。これは主として、たな卸資産の増加69億6百万円、有形固定資産の増加37億1千6百万円、繰延税金資産の増加6億4千3百万円と受取手形及び売掛金の減少95億2千7百万円、現金及び預金の減少14億8百万円によるものであります。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末の670億6千万円に比べ28億2千万円増加し、698億8千1百万円となりました。これは主として、短期借入金の増加42億6千3百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加14億7千5百万円、長期借入金の増加7億1千6百万円と電子記録債務の減少9億3千1百万円、流動負債のその他に含まれる未払金の減少8億9千5百万円、支払手形及び買掛金の減少8億2百万円によるものであります。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末の584億9千6百万円に比べ23億8千3百万円減少し、561億1千3百万円となりました。これは主として、利益剰余金の減少15億7千3百万円と為替換算調整勘定の減少6億7千4百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、前回発表(2019年11月8日付)の通期業績予想を以下のとおり修正することといたしました。

本日公表いたしました「2020年3月期通期の業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ」に記載したとおり、売上高につきましては、国内において、建設用クレーンの一部でモデルチェンジ前の駆け込み需要の反動減が想定より大きい事や、消費税増税及び景気の先行き不透明感から顧客の買い控えが続いている為、前回予想を下回る見込みとなりました。海外においても、中国経済の減速により主要輸出先である東南アジアの経済が影響を受け、売上高は予想を下回る見込みとなりました。

損益面につきましては、売上高の減少に加え、棚卸資産の評価損、製品保証関連費用及び開発費等の増加が見込まれており、営業利益及び経常利益は前回予想を大幅に下回る見込みとなりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益においても、前述の理由により親会社株主に帰属する当期純損失となる見込みであります。

なお、現時点において新型コロナウイルスによる業績への影響を合理的に算出する事は困難な為、今回の予想には織り込んでおりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,255	12,847
受取手形及び売掛金	42,917	33,390
たな卸資産	42,556	49,462
その他	2,409	2,351
貸倒引当金	△4,143	△4,065
流動資産合計	97,995	93,985
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,305	12,562
機械装置及び運搬具（純額）	2,341	3,800
土地	6,021	6,029
建設仮勘定	1,024	1,270
その他（純額）	551	1,298
有形固定資産合計	21,243	24,960
無形固定資産	756	719
投資その他の資産		
投資有価証券	2,082	2,260
破産更生債権等	2,850	2,494
繰延税金資産	2,423	3,066
その他	1,012	964
貸倒引当金	△2,808	△2,457
投資その他の資産合計	5,560	6,328
固定資産合計	27,561	32,008
資産合計	125,557	125,994

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,644	8,841
電子記録債務	15,445	14,514
短期借入金	4,600	8,863
1年内償還予定の社債	1,880	1,880
1年内返済予定の長期借入金	5,142	6,617
未払法人税等	490	188
賞与引当金	736	343
製品保証引当金	1,092	1,130
その他	4,014	2,803
流動負債合計	43,047	45,183
固定負債		
社債	2,660	2,280
長期借入金	20,419	21,136
退職給付に係る負債	607	790
その他	325	489
固定負債合計	24,013	24,697
負債合計	67,060	69,881
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,935	2,935
資本剰余金	7,109	7,109
利益剰余金	45,480	43,906
自己株式	△38	△38
株主資本合計	55,487	53,913
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	61	70
為替換算調整勘定	1,980	1,305
退職給付に係る調整累計額	△60	△173
その他の包括利益累計額合計	1,980	1,202
非支配株主持分	1,029	997
純資産合計	58,496	56,113
負債純資産合計	125,557	125,994

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	59,263	55,464
売上原価	50,087	48,663
売上総利益	9,175	6,801
販売費及び一般管理費	6,326	7,061
営業利益又は営業損失(△)	2,849	△260
営業外収益		
受取利息	24	13
割賦販売受取利息	156	111
受取配当金	39	50
持分法による投資利益	—	0
為替差益	55	—
貸倒引当金戻入額	277	13
製品保証引当金戻入額	175	—
その他	190	171
営業外収益合計	919	359
営業外費用		
支払利息	164	169
持分法による投資損失	42	—
為替差損	—	257
その他	83	121
営業外費用合計	290	549
経常利益又は経常損失(△)	3,478	△450
特別利益		
固定資産売却益	3	230
投資有価証券売却益	173	—
特別利益合計	177	230
特別損失		
固定資産売却損	—	4
固定資産除却損	7	38
工場移転費用	—	506
特別損失合計	7	549
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,648	△769
法人税、住民税及び事業税	694	318
法人税等調整額	604	△357
法人税等合計	1,298	△38
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,350	△730
非支配株主に帰属する四半期純利益	142	21
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,208	△751

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,350	△730
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△155	8
為替換算調整勘定	△661	△749
退職給付に係る調整額	23	△113
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	0
その他の包括利益合計	△794	△853
四半期包括利益	1,555	△1,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,459	△1,543
非支配株主に係る四半期包括利益	95	△40

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった KATO IMER S.p.A. 及び KATO EUROPE B.V. は重要性が増したことにより、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(当社の持分法適用関連会社である光陽精機株式会社における不適切行為について)

前連結会計年度に、当社の持分法適用関連会社である光陽精機株式会社において、出荷していた免震・制振用オイルダンパーの一部について、性能検査記録データの書き換え行為により、顧客の基準値を外れた製品を出荷していた事実が判明いたしました。

今後発生が見込まれる当該事案の対策費用について、四半期連結決算上現時点で、合理的な見積りが可能な範囲で引当計上を行っております。なお、当該事案の今後の進捗次第では、追加で引当計上を行うことにより、当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点でその影響額を合理的に見積もることが困難であるため、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	日本	中国	その他 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	49,194	9,448	619	59,263	—	59,263
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3,847	1	—	3,848	△3,848	—
計	53,042	9,449	619	63,111	△3,848	59,263
セグメント利益又は損失(△)	1,213	1,673	△192	2,693	155	2,849

(注) 1 連結子会社KATO WORKS (THAILAND) CO., LTD. にかかわるものを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額にはセグメント間取引消去201百万円及びセグメント間未実現利益消去△46百万円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	日本	中国	その他 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	44,077	7,964	3,422	55,464	—	55,464
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3,100	9	12	3,122	△3,122	—
計	47,177	7,974	3,435	58,587	△3,122	55,464
セグメント利益又は損失(△)	△1,283	1,052	△481	△712	452	△260

(注) 1 タイ、イタリア及びオランダを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額にはセグメント間取引消去411百万円及びセグメント間未実現利益消去40百万円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。